

季刊

社会福祉法人
名古屋市総合リハビリテーション事業団

オレンジロード

ORANGE
ROAD

2024年
春号
vol.40



事業団公式マスコットキャラクター
りはみん

INDEX

- ◆就労支援課ってどんなところ?
- ◆りはみんサロン
(2023年11月~2024年1月)
- ◆新ドライビング
シミュレーターについて
- ◆障害者スポーツフォーラム
- ◆募集・事業所案内

発行：季刊オレンジロード編集委員会

就労支援課って
どんなところ?

特集



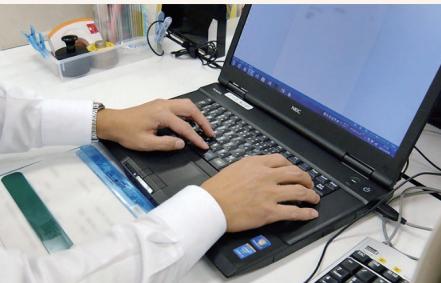
就労支援課ってどんなところ？

一人一人に寄り添った「働き方」をサポートします



こんなことは
ありませんか？

- 主治医から、職場に戻る前に「就労の訓練をした方が良い」と言われました。
- 退院はできただけど、今までの仕事ができるか不安です。
- 職場に戻るときに、会社にどう説明すればいいのか分からないです。
- うまく話せなかったり、体に麻痺があるので、仕事ができるか心配です。
- 早く働きたいけど、就労の訓練が必要か悩んでいます。



労移行支援事業所として提供しています。

事故や脳卒中などの後遺症として、高次脳機能障害の診断を受けた方が主に利用されており、ほとんどが中途障害の方です。利用者さんの中には、働くことに不安を抱えている方がいらっしゃる一方、主治医から就労の訓練を勧められて戸惑っている方も多くいらっしゃいます。ある日突然「障害がある」と告げられるわけですから、実感が湧かないのも当然です。ご本人にとっては「生活上は何も困っていない」「今までと何も変わらない」と感じている場合でも、ご家族や職場の方から「今までと少し違う面があるので、訓練をしてはどうか?」と勧められて利用されるケースも少なくありません。

高次脳機能障害は「目に見えない障害」といわれるよう自身の状態に正しく気づくことが難しい障害です。しかし、その症状は仕事上で現れやすいため、気づかないまま就労することは大きなリスクとなる場合が多くあります。自身に降りかかった急な変化に気づくためには、時間と認識するための訓練が必要です。

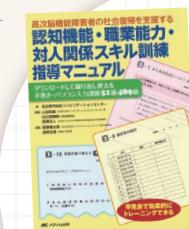
就労支援課の訓練は、実際の職場を想定した環境(=模擬職場)で行うという特徴があります。職業指導員が上司役になり、仕事の指示出しをしますので、時にはリアルなトラブルも発生しますが、訓練で発生したトラブルは実際の職場で

名古屋市総合リハビリテーションセンター就労支援課は、全国でも数少ない、高次脳機能障害のある方々の支援に特化した就労支援サービスを就

も同じように起きますので、まさに仕事のシミュレーションそのものです。私たちスタッフは、一緒に働く人の目線で関わることを意識し、スタッフ間の情報共有を密に行いながらチーム支援に徹し、利用者さんの障害を一番理解している存在になりたいと思って支援しています。

利用前は訓練の必要性を感じられなかった方も、徐々に自身の変化に気づき補償行動の必要性にも理解できるようになります。「つらいのは自分だけじゃない」「以前から物忘れはあったけど、ちょっとまずいぞ」「難しくなっていることに対して集中的に訓練できて非常に役に立った」と振り返られる方もいらっしゃいます。

就労支援課は、障害を抱えつつも就労を目指す利用者さん一人一人に寄り添い、働く際の悩みや課題の解決方法を一緒に考え、就職や職場定着のサポートを行っています。事故や病気をきっかけに「なんとなく前と違うかな」「高次脳機能障害と言われたけど何だろう」など少しでも不安をお持ちの場合は、当リハビリテーションセンターにお気軽にご相談ください。



★★★
interview

利用者インタビュー

Hさん 40代 精神障害者保健福祉手帳2級
脳出血による高次脳機能障害
利用終了後、樹脂製品メーカーへ職場復帰



Q1 どれくらいの期間訓練しましたか。

発症後、別の病院でリハビリ入院をしていましたが、復職したいと伝えたら名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院を紹介してもらい、転院しました。その後、身の回りのことがスムーズにできるように機能訓練を6ヶ月行いました。次に受けた就労移行支援は週5日の通所で、8ヶ月訓練しました。

Q2 どんな訓練をしましたか？

模擬職場というところで、パソコンの入力などの事務や仕分けなどの作業を行いました。職場と同じように上司役の職業指導員さんから指示を受けて、業務に取り組んでいきました。最初は、発症前と変わってないからすぐに復職できると思っていた。しかし日々訓練を重ねていくうちに、指示や手順の忘れ、数字の見間違いなどのミスが多発し、記憶力と注意力の低下を感じるようになってきました。

Q3 苦手になっていることを知るきっかけはありましたか？

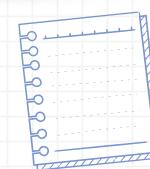
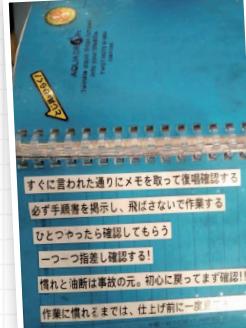
病院でのリハビリやセンターでの機能訓練、就労訓練など、焦らず時間をかけて取り組んだのは大きいかと思っています。また就労訓練では、自分では気づかない忘れやミスをその場で職業指導員さんがすぐに教えてくれたり、訓練日報に書き留めてくれたので、苦手になっていることを知るきっかけとなりました。

Q4 復職に向けてどのように職場へ伝えましたか？

自分が苦手になっていること、配慮が必要なことなどを職業指導員さんとまとめて、包み隠さず職場へ伝えました。また、就労支援員さんから以前の仕事に戻るのは難しいので、今の障害の状況に合わせた仕事を職場へお願いしてもらいました。

Q5 これから訓練を受けようか迷っている方へメッセージをお願いします。

復職して1年が過ぎました。仕事では、訓練で取り組んだ「メモ取り」を欠かさず続けています。職場には、メモが取れるスピードでゆっくり説明してもらったり、手順どおりに行えているか確認いただいている。訓練を通じて今の自分を知り、今の自分にあった働き方を習得し、職業生活を充実させてほしいと思います。



りはみんサロン報告

(2023年11月～2024年1月)

2023年
11月

「運動で脳トレ そうだ、体操をしよう」を開催しました！

2023年11月7日(火)に「運動で脳トレ そうだ、体操をしよう」をテーマにして開催し、17名の地域の方が参加されました。

前半は体を動かしながら脳トレと座位でのストレッチを実施し、脳トレでは「体を使った後出しジャンケン」や「手拍子+足踏み(1～30数える)」などを行いました。

「体を使った後出しジャンケン」では、ポーズを決めて「後出して勝つ・負ける」をしました。皆さん勝つ方はできていましたが、負けるとなると苦戦していました。「手拍子+足踏み(1～30数える)」では、常に足踏みをして3の倍数や3の倍数+3のつく数字、最後に3の倍数+5の倍数で手拍子をしてもらいました。難易度が上がるにつれて苦戦する方もいましたが、楽しく体を使って脳トレ

に励んでいました。

後半は座位でスポンジボール、ピン球、ビート板などを使用した運動をしました。内容はビート板の上でボールを落とさないようにコントロール(転がす・弾ませる)をしてもらうというものです。座位で実施したこともあり、はじめは力の調節に苦戦していましたが、慣れてくるとボールを落とす回数も減り、上手にコントロールできていました。

最後には2グループに分かれて円を作り、スポンジボール・ピン球・ビート板を使用してボール回しをしました。各グループともに盛り上がり、参加者同士で交流もでき、皆さんからも「楽しかった」との声もいただきました。



ボール運動



数える足踏み



体を使った後出しジャンケン

2023年
12月

「革細工体験」を開催しました!

2023年12月5日(火)に「革細工体験」を開催し、12名の地域の方が参加されました。

革細工はリハビリテーションセンターの3階、障害者支援施設に入所・通所されている方たちが訓練の一環として取り組んでいるもので、革を使って定期入れ、キーケース、印鑑入れ、財布などを制作しています。今回のりはみんサロンでは、丸型のかわいらしい小銭入れを作っていただきました。

制作の手順としては「柄付け」「色付け」「かがり（ひもで縫い合わせる）」があります。まずは柄付けで、型と木づちを使って革に柄を付けるのですが、

皆さんどの柄をどの配置で付けるか、悩みながら取り組まれていました。

次は色付けです。10色ほどある色の中から1色または2色を選んで、はけで革に塗り、色付けしていきます。どの



かがり（ひもで縫い合わせる）

色を使うかを参加者同士で相談しながら、また既に塗り始めた人の作品を見て、ワイワイと取り組まれていました。

最後はかがりです。これは全員が同じ作業をすることになりますが、中にはひもがねじれてしまうなど、苦労されている方もいました。

忙しい作業工程でしたが、時間内に全員が作品を完成させることができました。それぞれ個性的なデザインと色付けで参加者同士、作品を見せ合いながら楽しそうに持ち帰っていました。今回のサロンは、同じものを皆で作ることによって初めて会った人とも楽しく会話でき、また施設での訓練を少しでも理解してもらえる良い機会だったと思います。今回は施設から3名の職員が参加ましたが、また地域の方と物作りを通して交流できたらと思います。



サロンの様子



柄付け練習

2024年
1月

「感染症対策」を開催しました!

2024年1月9日(火)に「感染症対策」をテーマに、りはみんサロンを開催しました。当日は、感染症の感染経路や手指衛生などについての解説と手洗い体験を行いました。

今回は、参加者が少人数でしたが、手洗い体験については細かなところまでアドバイスができたなど、少人数ならではの良さを感じることができました。また、参加者はとても熱心な方々で、講義中もメモを取り、手洗いの際も確認をしながら行っていました。正しい方法を学び、いつもよりも念入りに洗つたはずでしたが、手洗いチェックで確認すると、指

先や手の甲などの洗い残しがありました。『洗い残しが光る』ということは、とて



手洗いチェック

もインパクトが大きく「きちんと洗ったはずなのに…」という思いと「これからは指先に気を付けて…」など、今後の改善点に気付く機会になったようです。

コロナ禍以降、どこへ出かけても入り口に消毒薬が設置され、手洗いや手指消毒などを行うことを求められる世の中になりましたが、正しい手洗い、手指消毒の方法をきちんと習う機会はあまりなく、多くの方が自己流で行っていたのではないかと思います。今後も正しい方法を地域の皆さんにお伝えできる機会を作っていくべきだと思います。



洗い方法の説明



講座説明



新ドライビングシミュレーターについて

当リハビリテーションセンターでは、病気や障害のある方の自動車運転適性についてドライビングシミュレーターを活用した評価を行ってきました。前機種のシミュレーターは、運用開始から10年経過し1,000名を超える方が使用しました。自動車運転評価のニーズ

は高く評価件数は年々増加する一方で、経年劣化による機械の不具合が頻発するようになり、このたび新機種のシミュレーターが導入されました。

今回導入されたドライビングシミュレーターの特徴は主に2点です。

1 3画面ディスプレーによる広い視界を確保し、実際の交通環境に近い運転体験を再現

1画面ディスプレーであった前機種に比べ、視界が広くよりリアルな運転環境が再現されました。病気や障害によって運転に支障を及ぼすことがないか、現実に近いシミュレーターを用いることで安全に評価を行うことができます。



新シミュレーター
全体像

2 実際の車相応の装備と運転補助装置の充実

病気やけがによって身体に障害がある場合、乗り降りや運転操作方法を変更することができます。左足用のアクセルペダル、手動運転装置などの運転補助装置を装備してい



実際の
車相応の装備

ますので、あらゆる障害のある方に対応でき、実際の車に近い装備で評価することができます。



豊富な
運転補助装置



自動車の運転は生活を送る上で便利な移動手段のひとつですが、一方で人を危険にさらす凶器にもなるリスクを伴うことも忘れてはいけません。本シミュレーターを活用することで慎重な評価を行い、医学的な側面から安全な交通社会の実現に貢献できるよう取り組んでまいります。



障害者スポーツフォーラム

名古屋市と共に、2026年に開催される第5回アジアパラ競技大会（2026年／愛知・名古屋）を契機にパラスポーツをより一層推進するため、広く市民に向けて、大会の機運醸成とボランティアへの興味関心を高めることを目的とするフォーラムを開催しました。



河合 純一さん



北澤 豪さん



小林 美鈴さん

名古屋市障害者
スポーツセンター
小川所長

日時 2023(令和5)年12月24日(日) 13:00～16:30

会場 名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

トークセッション 時間 14:00～15:30

テーマ みんなでスポーツを楽しむために
～スポーツボランティアの力～

出演者 ● 河合 純一 日本パラリンピック委員会委員長、パラリンピアン、競泳元日本代表

● 北澤 豪 日本障がい者サッカー連盟会長、サッカー元日本代表

MC ● 小林 美鈴

パラスポーツ体験会 時間 13:00～14:00、15:30～16:30

内容 ブラインドフットボール体験



日本パラリンピック委員会委員長であり、自身もパラリンピアンである河合純一氏と日本障がい者サッカー連盟会長であり、サッカー元日本代表の北澤豪氏の両氏に、東京2020パラリンピック前後のパラスポーツを取り巻く環境の変化、とくにサポート(ボランティア)に関するマインドの変化などについて、真剣に時には笑いを交えて熱く語っていただきました。

その中でも、ボランティアは決して黒子ではない、アスリート、監督・コーチ、競技役員、運営スタッフ、ボランティア、観客、誰一人欠くわけにはいかず、関わるすべての人々が主役という言葉は、とても印象深いです。

最後の質問タイムでは、たくさんの質問や感想が挙がり、皆さんの関心とやる気の高さを感じられた有意義なイベントになりました。



私たちと一緒に
働きませんか

事業団職員 大募集

随时
募集中
です!

職場見学
大歓迎



現在募集中



正規職員

事務・社会福祉職を募集中です。

嘱託職員

嘱託(パート)職員を募集中です。

下記二次元コードで
募集案内をご覧ください。

お問い合わせ先

社会福祉法人名古屋市総合リハビリテーション事業団

総務部総務課 採用担当

〒467-8622 名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2

電話番号 052-835-3811

最新の募集情報、待遇等の詳細は事業団ウェブサイトをご参照ください。

正規職員募集
についてはこちら

嘱託職員募集
についてはこちら



事業団ウェブサイト

<https://www.nagoya-rehab.or.jp>
事業団公式HP▶



事業団公式X(旧Twitter)

名古屋市総合リハビリテーション事業団@公式
→ @nagoya_rehab

事業所案内

- ・名古屋市総合リハビリテーションセンター
- ・福祉スポーツセンター
- ・障害者就労支援センター めいりは
- ・なごや高次脳機能障害支援センター

〒467-8622
名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1番地の2
電話: 052-835-3811 FAX: 052-835-3745

名古屋市障害者スポーツセンター
〒465-0055
名古屋市名東区勢子坊二丁目1501番地
電話: 052-703-6633 FAX: 052-704-8370

なごや福祉用具プラザ

〒466-0015
名古屋市昭和区御器所通三丁目12-1
御器所ステーションビル3F
電話: 052-851-0051 FAX: 052-851-0056

- ・瑞穂区障害者基幹相談支援センター
- ・地域活動支援センター つきみがおか

〒467-0035 名古屋市瑞穂区弥富町月見ヶ岡5
NTT西日本八事ビル1階
電話: 052-835-3848 FAX: 052-835-3743